

放送日 令和元年7月1日(月)

担当者 すみれ保育園長 塚崎 智美

おはようございます。すみれ保育園園長の塚崎です。

昨年、保育指針が10年振りに改定され、その間、保育園に入る子どもの数は増え、特に0、1、2歳児が大きく増加しています。この年齢は自我を獲得し、心や体の発達にとって重要な時期となります。そのため、日々の保育の在り方が成長や社会性の獲得に大きな影響を与えることから、保育内容を特に充実することとなりました。知識を得たり、記憶したり、正しく読み書きができるといった認知能力を丁寧に育てていくこと、と同時に認知ではない能力、非認知能力を育てることがとても重要になってきています。非認知能力は生活の中で身に付ける人間にとって、とても大事な力です。

臨機応変に対応できる力が今、求められています。「できない、できない」と始めから、あきらめるのではなく、どうしたらできるか考える力、社会にでたとき困難に立ち向かうことのできる力を乳幼児期から育てていくことが求められています。保育士主導型から子ども主導型へ変えていく必要があります。

今、保育園では子どもが好きな遊びを自分で選ぶことができるよう、ブロックやままごとなど手に取って遊べる環境を整えています。「これしなさい」「あれしなさい」と言ってさせられるのではなく、子ども自身が「あれやりたい」「これしたい」と思う気持ちを大事にし、子ども自ら遊びを考え、継続できる環境を整え、非認知能力を育てていきたいと思います。子どもはしたいことを自分で選び、自分のやりたいやり方で遊ぶ時、もっとも育っていくものです。保育士として子どもの生命を輝かせ、気持ちを受け止め、見守りながら保護者、地域の方々とともに大事に育てていきたいと思います。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年7月2日(火)
担当者 すずらん保育園長 石間 利恵

おはようございます。すずらん保育園長の石間です。

子どもに関する悲しいニュースや、北広島団地内にクマが出没するなど、不安な出来事が多い毎日ですが、保育園では、朝、いつものように「おはようございます」の元気な声が響き、子ども達の笑顔に会えることは、私たち職員にとって、パワーの源になっています。

その笑顔とともに、日々の生活の中で、遊びを通し身につけてきた運動やルールを、保護者の方々に見てもらう機会として、7月6日(土)に運動会を開催します。

子ども達にとっては、お家の人に見守られる中で、日々積み重ねてきた頑張りを発揮し、これまでの成長を喜び合える事は何よりうれしく、また新たな取り組みに向き合う自信となります。

練習では、笛の合図で行進、体操や遊戯の音楽が流れると、小さな子ども達も自然と体を揺らし始めます。かけっこで、「ヨーイドン！」の掛け声に一斉に走り出し、ゴールを目指す表情は、みんな得意気です。

また、競争心の芽生える年齢になると、リレーや玉入れで、「今日は負けないぞ！」「白組、頑張れ！」と、勝敗を意識した言葉が飛び交い、応援にも熱が入ります。

地域の方々は、フェンス越しに頑張る姿を見て、「子ども達の声を聞くと、元気もらえるんだよ。」と言いながら、応援してくれ、子ども達の励みになっています。

その運動会も、今年で42回目になります。笑顔で迎えることの喜びをかみしめながら、子ども達の勇姿を応援したいと思います。

声のかけ合いは、心の架け橋です。1日の始まりに、笑顔で挨拶は、とてもうれしいものです。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年7月3日(水)
担当者 稲穂保育園長 藤田 悦子

おはようございます。稲穂保育園園長の藤田です。

ここ最近、戸外活動中の園児が交通事故に巻き込まれるという悲しい出来事が立て続けに起きています。保育園では、自然物との触れ合いによる様々な発見、体力作り、地域の方々との交流など子ども達の成長を見据えて戸外活動を積極的に取り入れており、今回の事は何時でも何処でも起こり得る出来事に、私達職員にとっても衝撃的なことであり安全管理について考えさせられました。そして過去のことも思い出しました。私が初めての異動で広葉町のすみれ保育園から大曲保育園へ行く際、先輩保育士から「大曲保育園の散歩は緊張感があるからね」と言われ、その意味が今一つわからなかったのですが、異動後すぐに理解できました。大曲は目的地によっては36号線を横断したり、歩道の無い所を歩かざるを得ない状況で、保育士の声掛けで早急に複数列に並び替え信号を横断したり、歩道のないところは白線をしっかり意識して歩いたりなど遊歩道に囲まれている保育園の散歩とは大人も子どもも緊張感が多少違っていました。今回の事故の映像を見る度に当時を思い出すとともに、自分ならどんな配置で待機し対応できたのだろうか。大人の対応、子ども達への日々の交通ルールの意識付けの重要性を痛感させられました。交通事故を含め生後7週目からの子を預かる保育園では、アレルギーによるショック症状、乳幼児突然死など、様々な危険が潜んでいます。想定外の事が起こり得る保育園職場では、常に緊張感を持ち働いています。次代を担う子ども達の命を守るためにも新人、ベテラン関係なく迅速かつ冷静な対応ができるよう、園内外の研修なども含め職員の資質向上の必要性を再認識させられる機会となりました。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年7月4日(木)

担当者 庶務課長 中居 直人

おはようございます。建設部庶務課長の中居です。

今回、4回目の朝のスピーチとなります。いつも何を話そうかと迷うのですが、今回は人口に絡めた話を少しさせてもらいます。私は個人的に道内の市町村、厳密には道内の全市及び当時1万人以上の町の人口を平成7年から記録してきました。

これまで24年間、約四半世紀にわたって記録をしてきた訳です。まあ、偉そうに記録といいましてもデータの出どころは実に簡単に手に入る自治手帳に記載されている市町村人口データです。しかも何故かは分かりませんが毎年若干データの期日が違っており、6月末であったり、10月1日であったりと定まっておられません。

しかし、概ねの目安になると思いこれまで続けてきました。記録し始めた当初は本市も5万2千人余りとまだまだ人口増加の過程であり、道内でも地方の主要都市については少し人口が増えている状況でありました。

その後、市町村の合併などがあり、多少の動きはあったものの徐々に人口増の自治体は減少して行き、皆さんもご承知のとおり道央圏にある本市でも現在では、毎年若干の人口減を続けております。

それが今回の人口データによると札幌市が初めて人口減となってしまいました。

もちろん先程お話ししましたが、あくまでも自治手帳のデータでの話です。実際の統計データでは人口増となっているはずですが。

ただ、これまでも帯広市や苫小牧市のように人口増を続けていた地方の主要都市が減少に転ずるときには、同様にこの様な動きを数年間示したのちに実際に人口を減らしていくことになりました。

これまで、いついかなる時でも人口を増やし続けてきた札幌市で、この様なことになったことに正直、驚きました。いつかはそのような時が来るのは何となくわかっていたわけですが、近い将来、間違いなく札幌市も人口減を続ける時代がやってくるのを実感した瞬間でした。

ちょっとネガティブな話となってしまいました。決してそんなことを話したかったわけではありません。

つまりそういう時代を迎える時に本市にはボールパークという夢のある話があるということです。

道内の数多くの自治体が行く末を大きく憂っている中で我が街は現在、大いなる挑戦を進めているのです。

しかも、皆さんも私も間接的ではあってもその挑戦に関わっていること、これは紛れもない事実であります。

もちろん順風満帆なことばかりではないと思います。ただ、どうせなら、このタイミングに丁度居合わせたことを幸せと捉えようではありませんか。

是非、皆さんで2023年春、喜びを分かち合うため総力を結集してこの挑戦に臨んでまいりましょう。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年7月5日(金)
担当者 都市整備課長 佐々木 克彦

おはようございます。建設部都市整備課長の佐々木です。今日は、都市整備課で行っている、業務についてお話ししたいと思います。都市整備課では、道路・公園の整備、河川改修、緑化推進・市有林の管理・河川親水事業、公園緑地の維持管理、土地区画整理事業、災害復旧事業の実施、他部局の事業等多岐に渡る業務を、15名の職員で対応しています。

それでは、少しだけ具体的にお話ししたいと思います。道路整備担当においては、輪厚地区で市道輪厚三島線を国道36号から自然の森キャンプ場までの約1.4kmの歩道整備と車道舗装を平成30年から令和5年までの計画で行っています。また西の里地区では、国道274号から大曲方面に向かう市道大曲榎山線の道路改良工事を平成29年度から実施し、本年JRに架かる橋の掛替工事を行い、令和4年度までに道路改良約1.2km行う予定です。この他生活道路の改築を東部地区・大曲地区において6路線行う予定です。また公園整備では、大曲にあるつつじヶ丘公園のテニスコート改修や、団地内にある街区公園のフェンス改修、四阿の設置を行う予定です。緑化、河川親水事業においては、オープンガーデン、花のまちコンクール、誕生記念植樹、花いっぱい運動、輪厚川での釣り体験事業等々本市のイメージアップにつながる各種事業を行っています。公園の管理においては、市内225ヶ所ある公園緑地についての市民からの要望・苦情や樹木剪定をはじめ各種維持管理を指定管理業者と、3名の職員で対応しています。さらに今年度は、昨年発生した大曲並木地区の災害復旧のため、調査設計委託を実施しているところであり、現在委託業者、関係部署との協議調整を行いながら、できるだけ早期に被災住民との合意形成を図り、現場着手を目指したいと考えています。

これら数多くの業務を、課が一丸となって対応していきたいと思っています。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年7月8日(月)
担当者 建築課長 松崎 隆志

おはようございます。建築課長の松崎です。

本日は、私の所属する建築課の業務について、お話をしたいと思います。建築課の業務は大きく3つに分かれており、確認申請等の受付や相談業務などを行う建築指導担当、営繕工事の設計や工事監理をする工事担当、市営住宅の建て替え計画と管理を行う住宅管理担当がありますが、今回は、住宅管理担当が管理している市営住宅についてお話ししたいと思います。

市営住宅は、「国及び地方公共団体が協力して、健康で文化的な生活を営むに足りる住宅を整備し、これを住宅に困窮する低額所得者に対し低廉な家賃で賃貸することを目的とする公営住宅法」に定められ、供給されている住宅です。

このような位置づけのもとで、北広島市は市内に居住する、もしくは勤務する、住宅に困窮している低額所得世帯を対象に良質な借家を供給しており、民間では担えない、住宅に困窮する世帯や災害時の緊急的な住宅需要に対する住宅・居住のセーフティネットの役割を担っています。

市営住宅は、古くは広島村であった昭和33年に広島地区(現在の中央2丁目)と輪厚地区に初めて建設され、西の里地区、共栄地区と拡大されていきました。

その後、老朽化も進んだため、建て替え計画が進められ、平成4年からの広島団地をかわきりに輪厚団地が平成13年度に、西の里団地が平成22年度に建替えが完了し、現在は共栄団地建替え事業の最後となる5号棟の建設が進められており、来年3月に完成し共栄団地の建替えが終了する予定です。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年7月9日（火）
担当者 土木事務所長 人見 桂史

おはようございます。建設部土木事務所長の人見です。

土木事務所は、主に道路・河川・市営駐車場の維持管理を行い、冬には道路や公共施設の除雪を行っている部署です。

昨年の朝のスピーチでは新人職員へのアドバイスとして、経験値を早くあげることと判断する癖をつけることをお話しさせていただきました。今回も、先輩として新人職員へのアドバイスをさせていただきます。

今回は、引継ぎ書を日々作成する習慣をつけることをお勧めします。

新人職員の皆さんも、大部分の方々が3年～5年後には異動することになると思います。

今、自分がしている仕事を次の担当者に引き継ぐために、その仕事をしている自分がその仕事を一番よく分かっているという自覚を持って、何にどう気を付けて仕事をしなければならないかを事あるごとに書き留めておけば、必要なことを漏らさず次の担当者に伝えることができます。特に、失敗したことが重要です。自分の失敗を人に伝えるのは恥ずかしいかもしれませんが、どうして失敗したのか、どうすれば良かったのかをきちんと伝えることで、同じ失敗を繰り返すことがなくなります。

日頃から作成・更新していれば、異動の際に引継ぎ書を作成するための無駄な残業なんてしなくて済むようになります。また異動しなかった場合にも、書き溜めたものを自分への確認書として見直すことで業務の効率化が図られ、ミスを減らせると思います。

良かったら参考にしてみてください。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年7月10日(水)

担当者 農政課長 及川 浩司

おはようございます。農政課長の及川です。

今朝は、私が担当している農業の分野で最近特に注目されている「スマート農業」について、少しお話しさせていただきます。

スマート農業とは、ロボットやAI、IoT、ドローン、リモートセンシング技術などの先端技術を農業の世界へ導入することにより、農作業の自動化や時間短縮、若手農業者への技術継承、作物の生育や病害を正確に予測した高度な農業経営を可能にすることを総称してそう呼ばれています。

昨年、日曜夜に放送されていたドラマ「下町ロケット」を観ていた方はお分かりいただけと思いますが、作中に登場した自動走行トラクターがまさにスマート農業の代表的なものであり、それは、見るからに高価で操作も難しく「普通の農家が導入するなんて現実的ではない。」と感じた方も多かったのではないかと思います。

ところが、近郊の岩見沢市や新篠津村では既に自動走行トラクターが導入され実用化されており、作業量の軽減や経営規模の拡大などが図られていることをご存知でしょうか？

決してドラマの世界だけの話ではないのです。

ではなぜ岩見沢市などでは、高額な費用を投じてまでスマート農業を進めているのでしょうか？

それは、農業分野での担い手減少や高齢化による労働力不足が深刻であり、また、経営耕地面積拡大に伴い、1人当たりの作業面積の限界を打破するための技術革新を農業者自身が強く求めているからではないでしょうか。

転じて、北広島市でも、昭和40年に700戸あった農家が、現在では150戸と激減しており、農業の担い手不足が本市農業存続の喫緊の課題となっています。

なお、その原因は、農業特有の重労働や時間的拘束、天候などに左右される不安定な経営などではありますが、スマート農業は、その重労働や時間的拘束から農業従事者を解放するとともに、安定した所得の確保にも寄与するものであることから、担い手確保の切り札になり得るものであると考えられます。

したがって、近い将来、本市においてもその活用が図られるものと想定されますことから、本市農業に関わる一人として、私自身も更にスマート農業について理解を深め、その費用対効果などを検証したうえで農業政策に反映させるなど、本市農業の継続・発展の一助となるよう努力していきたいと思っております。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいただく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年7月11日(木)

担当者 観光振興課長 山田 基

おはようございます。観光振興課長の山田です。

本日は観光振興課で事務局の運営をしています北広島市観光協会についてお話しします。北広島市観光協会は、昭和54年に任意団体として設立して以来、主にふるさと祭りやふれあい雪まつり、北の酒祭りといったイベント事業の開催を通じて、観光振興と地域の活性化を目的とした取組を行っています。さて、近年、全国的な人口減少による経済活動の縮小が見込まれる中で、観光振興による交流人口の拡大は、経済的効果が期待されています。北広島市においては、訪日外国人が増加しており、さらに2023年にはボールパークの開業が予定されるなど、これまで以上に交流人口の増加が見込まれます。このような背景から、北広島市観光協会では、組織や事業運営を大きく転換する時期と捉え、現在、観光協会の役員、学識経験者や市民などで構成する委員会を設置し、行政補完型となっている団体運営からの自立化に向けた検討を進めています。また、この検討にあたり、観光協会では市との連携によって、本日7月11日から8月30日まで、JR北広島駅東口の空きテナントで、観光案内等を試行的に運営します。イベントが集中するこの期間に観光案内所を開設することで、市民や来訪者の交流の促進はもとより、観光ボランティアなどの人材発掘にも繋がっていくものと期待しているところです。

観光協会は、イベント運営等を主体とした団体から、本市の観光まちづくりの担い手である実行部隊に変わろうとしています。観光振興課としましても、観光協会の取組を支援するとともに、これらを通じて、観光行政としてのあり方を明確にしていきたいと考えています。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年7月12日（金）
担当者 商工業振興課長 林 睦晃

おはようございます。商工業振興課長の林睦晃です。

本日は、日常の買物に不便を感じている方への支援についてお話をいたします。

昨年度、食料品や日用品等の取扱い店舗から500メートル以上離れた区域にお住いの65歳以上の方の中から2千人を対象にアンケート調査を実施いたしました。

設問では、現在、買物に不便を感じている方は29.1%という状況でしたが、将来に向けて希望する支援については、「近所で買い物できる場所がほしい」や「店舗で購入した物を自宅へ届けてほしい」と回答された方が20%を超える結果となり、今後、自家用車を手放すことなどにより、将来に向けた不安を感じる方が多いことも把握することができました。今年度はモデル事業として、生活協同組合コープさっぽろとの連携協定に基づき、移動販売「おまかせ便・カケル」を北広島団地地区において週5日、3コースで運行しているところですが、そのほか、市内事業者で実施している、自宅からの注文や店舗で購入した商品を届けてくれる宅配サービスなどの買物サービスや店舗の場所がわかるマップなどを紹介するガイドブックの作成、また、市内事業者の方々にも協力をいただきながら、買物サービスの活用方法を紹介する講習会の開催なども予定しているところです。

今後も引き続き、アンケート調査の結果などをもとに整理しました「近所で買い物できる場の確保」、「買物サービスの利活用の促進」、「利用しやすい移動手段の確保」の買物不便者支援の3本柱を中心に、地域の特性などに応じた取組の検討について、市内事業者や地域にお住いの方々にもご協力をいただきながら進めていきたいと考えております。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年7月16日(火)

担当者 観光協会担当参事 松田 恭昌

おはようございます。経済部参事の松田です。本日は私の担当している観光関連についてのお話しします。

先日土曜日曜日に掛けて北広島酒祭りが開催され、両日とも盛況の中無事終了しました。また、JR北広島駅案内所も本格的にスタートし、連休中は720名あまりの来場がありました。

JRヘルシーウォーキングとタイアップした観光案内所による酒祭りのチケット販売は当日のみで10万円の売り上げを達成することが出来ました。このことは観光案内所を設置したからこそ実現できた成果であり、まだ試験的な部分も多々ありますが、今まで観光案内所は存在していなかった事を考えると大きな前進であると実感しました。

北広島市はこれから観光まちづくりという関連から大きく変貌と遂げていくのは皆さんもご承知と通りかと思えます。

北広島市観光協会は現在まで法人化されておらず、庁舎内で事務作業を兼務している状況で全国的にも出遅れている状況であります。私はむしろそれが良い方向に変わるのではと考えております。

現在観光振興に関して全国的に大幅に見直されており、ゼロから考え直す市町村が増えております。わが町も既存概念にとらわれず北広島独自の観光振興プランを突き進む大きな転機を迎えています。

そんな中、ボールパーク開業に向けては来月推進室はアメリカへ渡米し現地視察もあり、農政課においてもグリーンツーリズムの農泊プランを日々協議しており、行政により活発に動いています。

観光振興課としても今回の観光案内所の設置をきっかけに市内全域の観光組織をつかさどる大きな法人団体となることを理想とし日々邁進しております。

将来的に観光協会が独立した際には、強い観光組織として行政と市民を支えることが出来る体制を構想しております。遠くない将来には、ゼロからスタートした観光協会が世界レベルで一流と言われ、多くの関係者が視察に北広島へ訪れる日が来ると信じて活動しております。

皆さまぜひ一度北広島駅観光案内所へ足をお運び下さい。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年7月17日(水)
担当者 経営管理課長 木村 公也

おはようございます。水道部経営管理課の木村です。

経営管理課とは、聞き慣れない課名と思われるかもしれませんが、今年4月から、水道事業の事務を担当していた業務課と下水道課の事務担当スタッフを統合し新設された課で、水道事業と下水道事業両方の事務を担当することとなりました。

さて、経営管理とはどのようなことかと言いますと、水道事業と下水道事業は、地方公共団体が経営する企業である公営企業であり、一般企業と同じように料金収入などの売上で職員の給与などの維持管理経費を賄い、収入源となる水道管などの施設に投資を行う、文字どおり企業経営を行う組織です。水道事業も下水道事業も料金により経営を維持していますが、長期的な見通しでは、人口の減少に伴い料金収入が減少し、経営の維持が困難になることが予想されています。

こうしたことから、より計画的に収入、支出と投資のバランスを適正に保つ、経営のマネジメント、課名のとおり「経営管理」が事業経営を維持するうえで益々重要になってきており、今後は、近隣団体との広域連携による施設整備や維持管理の効率化、水需要確保に向けた対策、料金以外の収入確保対策なども実現に向けて真剣に考えていく必要があります。

そうした中、最近嬉しい出来事がありました。今更と思われるかもしれませんが、当課のスタッフ坂井から水道の検針票への広告掲載について提案を受けました。いいね」と即答でOKし、広告募集の手続きを進めたところ、見事応募企業があり、大きな金額ではありませんが、新たな収入確保を実現しました。この広告掲載は、既存のレイアウトを見直すことにより広告掲載スペースを確保するという新たな発想がなければ、成し得なかったことです。今まで誰もしてこなかったことに意欲的に取り組む姿勢は、わがまちに求められる職員像そのものです。新しい検針票は、10月検針分から皆さまのお手元に届けられる予定です。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年7月18日(木)
担当者 水道施設課長 笹原 拓己

おはようございます。水道施設課の笹原です。

私が水道施設課に配属となり、早1年が過ぎました。

この1年間の業務で忘れられないのは、やはり昨年9月に発生した、北海道胆振東部地震での対応です。

普段は蛇口をひねると、冷たくておいしい水が、勢いよく出てきますが、これは誰もが当たり前と思っています。近年、日本各地に起こる地震や大雨などの自然災害で、必ずと言って良いほど断水が起こっています。

ご存知のとおり、胆振東部地震では、北広島市は震度5弱を観測、配水管の大きな破損はありませんでしたが、停電により各配水池も非常用電源による稼働となりました。

地震発生から2時間後から、『数時間後に断水する』などのデマ情報などが拡散し、使用量が異常に増え配水池の水位が低下しました。

また、停電の影響から電話回線が不通となり、水道管理センターでの各配水池の監視、操作が不能となりました。この対応は現地に職員が張付き、防災無線で1時間ごとに連絡を取り状況を確認し、水位調整を手動により復電まで行いました。

この様に、職員ほか委託業者の方々のご協力もあり、『チーム水道』一丸となって断水することなくライフラインを死守できた事は、全員の使命感の塊と言っても過言ではないでしょう。

この状況下で役立ったのが、携帯電話アプリのLINEでした。職員全員でグループ登録を行い、日頃より漏水などの情報共有に活用していましたが、地震の際には、複数現場の状況把握、写真や動画を張付けることにより一目瞭然になりました。また、後日対応状況をまとめる際には、コメント毎に時間が表示されているため、時系列を追うのに便利でした。

この体験から、3月には『水道事業災害対策計画』を大幅に見直しました。

このような実体験を次に生かすことは非常に大切であり、貴重だと思いますが、正直なところ生かすことが無いようにと願うのは自分だけでしょうか・・・

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年7月19日（金）

担当者 下水道課長 橋本 洋二

おはようございます。水道部下水道課の橋本です。

みなさんは下水道と言うと、何をイメージしますか。

大体の人は汚水を想像するでしょう。汚水といえば、汚物が流れている。汚物といえば代表的なものは、うんちを想像すると思います。

私も含めほとんどの人は、毎日のようにうんちやおしっこをして、トイレに流しながら人生を送っています。

そこで毎日使用し、心落ち着くトイレについて話をさせていただきます。

日本の昔のトイレは汲み取り式のトイレでした。通称ポットン便所、ポットン便所、ポットン便所、ドッポン便所、ポチャントイレなどがあり、汲み取り式便所の俗称はすべて落下音の擬音語を使っていました。

その次に出てきたのが和風便器です。日本の伝統的なしゃがみ式の便器で、汲み取り式のトイレでした。当初は木製のものでしたが、木製の便器は腐食しやすいことから、耐久性を高めるために陶器製の便器が登場したそうです。

その後に出てきたものが、洋風便器です。足をケガした時や足の具合の悪い人には腰かけ式のほうがよく、年をとった人にも腰かけ式の方が使いやすく、現在では水洗式洋風便器が主流となっています。さらに、ウォシュレットなど多様な機能も搭載されているトイレも出てきました。

また、車いす用トイレや高齢者向けのトイレリフト等、ユニバーサルデザインに配慮したトイレも出てきています。つまり、人類とともに発展してきたトイレは、私たちの生活をより快適に過ごしやすい空間となって来ています。

ちなみに私の幼い時のトイレは、和風便器のついた汲み取り式のポットン便所でした。みなさんはどんな便所・トイレだったのか思い出して見て下さい。

そしてみなさんがトイレから流したものが、下水道管を流れて下水処理センターで処理されています。

明後日、7月21日（日曜日）は第25回参議院議員通常選挙の投票日です。選挙事務に携わる職員のみなさん「大変でしょうが、がんばって下さい。」

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年7月22日(月)
担当者 下水処理センター長 藤本 正志

おはようございます。下水処理センター長の藤本です。

昨年は汚泥処理についてお話をしたので、今回は下水処理センターの基本である、水処理の仕組みについてお話をしたいと思います。

皆さんもご承知のように、各家庭や工場等からの排水は下水道管を通り、下水処理センターへ流れてきます。そこで、沈砂池、最初沈殿池、反応タンク、最終沈殿池、消毒設備を経由し、法律に定められた基準に収まるよう処理を行い、島松川へ放流しています。

沈砂池では沈降した大きなごみや砂などを取り除きます。次に最初沈殿池へ送られ、約2時間かけゆっくりと流れる間に、沈砂池で沈まなかった小さなごみや砂を沈ませて取り除きます。沈んだ汚泥は、汚泥処理施設へ送られます。

最初沈殿池を通った下水は、反応タンクへ入ります。反応タンクでは、約8時間かけバクテリア等の様々な微生物が、水の汚れを分解し、細かい汚れも微生物等に付着して沈みやすい塊となり下水を浄化しています。このとき、微生物が必要とする空気を送り込んで攪拌しています。

この反応タンクでの処理が最も重要で、下水の流入量や水質の変化に応じ、反応タンク内の濃度を一定に保つため、空気量や最終沈殿池からの返送汚泥量等の調整を行っています。この調整次第で、本来沈むはずの汚泥が浮いてしまい、そのまま河川に放流されてしまうことが無いよう、常に監視をしています。

沈みやすい塊となった下水は、最終沈殿池で約4時間かけ沈ませ、きれいになった上澄み水を消毒し、島松川へ放流しています。沈んだ汚泥の一部は、反応タンクへ返送汚泥として送り、残りの汚泥は汚泥処理施設に送り、消化、脱水、乾燥の工程を得たのち汚泥肥料となります。

このように、下水処理センターでは清潔で快適な生活環境の確保、河川などの水質保全のため、毎日24時間休みなく稼働しています。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年7月23日（火）

担当者 契約課長 庄司 直義

おはようございます。契約課長の庄司です。

4月の人事異動でこの部署に来てから7月で4カ月目を迎えております。企業誘致の担当からの8年振りの異動と言うこともあり、これまでは、外に出ることが多かったのですが、内部の管理的な業務で、市の契約事務を主るとても重要な業務であることから、とても緊張した日々を送っております。

さて、今日は、私が担当しております契約課の業務についてお話しさせていただきます。

契約課では、工事契約、物品財産担当のスタッフに分け、私も含め5名体制で業務を行っております。

主な業務としては、物品購入、建設工事、工事に係る委託の入札、契約事務、公有財産の管理処分に関する業務、指定管理の選定に関する業務を行っております。

その中でも業務の大半を占めているのは、物品購入、工事等の契約、入札の執行であります。昨年度におきましては、建設工事等の入札で年間約160件、物品購入等の入札、見積合わせでは約260件を行ったところであります。今年度については、建設工事、委託に加えて、ボールパーク整備関連の委託、工事などで入札件数もさらに増加するものと見込んでおり、建設工事などの入札執行率も現時点で約54%と早いペースで進んでおり、スタッフも日々大量の業務に追われているところであります。今後もボールパーク整備に関連する道路や公園、上下水道の整備など、インフラ整備に関する工事が増えてくるとは思いますが、皆さんの業務が円滑に進む様、また、本市のまちづくりの力になれる様、契約事務を適正に執行してまいりたいと考えております。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年7月24日(水)

担当者 工事審査検査担当参事 小島 靖雄

おはようございます。工事審査・検査担当参事の小島です。

今年度末で再任用期間の満了を迎えます。今日で4回目の朝のスピーチですがこれが最後となります。

さて、昨今の役所は、多様化する社会ニーズの対応に追われ、ゆとりを無くしつつある職員が増えていると言われているようです。また、公務員のアンケートなどでもやりがいを持たなくなる職員も増えているようで、理由の一つに仕事量の増加が挙げられています。

本当にそうなのか、我々の若い時期も結構ブラックだったような気がします。昔は、残業するほど忙しいことをアピールする勘違い職員が見受けられましたが、心配なのは「忙しいことは、人に必要とされている証だ」と素直に考え、能力の限界まで頑張ってしまう職員です。しかし「忙」という字は「心を亡くす」と書く字であるともいわれています。仕事に追われ疲れた状況が続けばよい仕事はできないし、体や心を壊す事態にもなりかねません。

ほとんどの職員は経験を積み重ねながら自分なりになんとか心を亡くさないよう調整する能力を徐々に身に付けていくのですが、危うい職員もいます。そうならない予防策の一つとして、極限までの能力全開モードを続けず、余力を創り出し、気分転換となる遊びを見つけることが必要だと思います。人間にとって、緊張と弛緩は必要です。仕事を充実させながら、プライベートも充実させる、そのバランスを上手に保つことが必要だと思います。ある意味で、上手に「遊ぶ」ことができない人は、いい仕事もできないかもしれません。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年7月25日(木)

担当者 会計課長 宮下 照太郎

おはようございます。会計課の宮下です。私からは、会計課の仕事で、皆さんと関係の深いことと私が市職員として心がけていることの2点についてお話させていただきます。会計課は、審査、出納の2つに分かれています。審査担当からは、「検収印が抜けている」などの電話をもらう職員の方もいることでしょうか。決して怒っているわけではありません。ここでエラーが発見される分にはまだ銀行に支払いデータを送る前なので大丈夫です。しかし、出納の主査から「口座が間違っている」との電話をもらう方は同じミスは二度としないと心に誓って欲しいです。各課の経理担当の間違いが、その課、会計の審査担当、出納主査そして私をすり抜けてしまったエラーからです。昨年度、このエラーは264件ありました。今年度から、そのうちの銀行名や支店名の誤りがある場合は、1件150円の手数料を支払うことになりました。昨年に換算すると15,876円、払わなくてもよい手数料を支払うこととなってしまいます。今年度すでに手数料のかかるエラーが35件発生しています。当課においてもベテラン職員が皆さんの伝票を審査していますが、各課においても経理担当ばかりでなくすべての職員が、しっかりと伝票のチェックをしていただくようお願いいたします。

次に北広島市の職員として私が心がけていることですが、北広島市のことを好きでいることです。北広島市の職員として、サービスを提供し誇りをもって仕事するうえで大切なことであると考えているからです。職場は細分化されていますが、すべては北広島市、北広島市民に向いていることをイメージしながら、与えられた職務に当たるようにしています。2023年のボールパーク開業に向けて、職員一人ひとりが、「まちのセールスマン」として市民の皆様、さらには北広島市を訪れる皆さんに対応できるようにしたいものです。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年7月26(金)
担当者 議会事務局次長 大野 聡美

おはようございます。議会事務局次長の大野です。

今日は仕事に取り組むうえで、私が心掛けていることについて、お話したいと思います。それは、仕事をするうえで常にアップデートを意識するということです。1年目は、業務を把握するのに精一杯だと思いますが、2年目、3年目と業務をしていて何らかの違和感や経験を積んだからこそ感じる気づきがあった場合、原因は何か、どうしてそう感じるのか、どうしたら改善できるのかを自身に問いかけてみてほしいと思います。

今は目まぐるしく情勢や価値観が変わる時代です。公務員といえども、常に時代と向き合い、業務を変革していくことが求められています。私たちを取り巻く、ありとあらゆる道具やアイテム、システムは元をただせば、世界のどこかで誰かが気づき、長い年月を経て人類が少しずつ進化させてきたものなのです。

貴方のみずみずしい感性を埋もれさせないでください。たとえスティーブ・ジョブズのように、歴史に名が残らなかったとしても、ほんの一步でいい、まちや社会が進化するために、貴方ができる一步をぜひ踏み出してください。貴方がこの世に生まれ、授かった命に意味を見い出してください。北広島市に来て、貴方はすでにもうその一步を踏み出すチャンスを手に入れているのです。

あのフェイスブック社では、仕事をする上での重要な指針として、次の3点を挙げています。

- ①いかにインパクトのあるアイデアを生み出したか。
- ②自分のアイデアにどれだけ人を巻き込んだか。
- ③他人のアイデアをいかにサポートしたか。

です。新しいアイデアを実現するためには、膨大な手間と労力と時間が必要です。そして、様々な失敗や障害を乗り越え、全体を巻き込む強い気持ちが必要です。

もし、貴方に特に違和感や気づきがなかった場合は、職場内でコミュニケーションを密に取り、互いの感性の違いに、まず耳を澄ませてみてください。そして、誰かが一步を踏み出し、アップデートを始めようとしているなら、ぜひ一緒に考え応援してあげてほしいと思います。

心を込めた気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。思いやりのある親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年7月29日(月)
担当者 監査事務局次長 棚田 吉浩

おはようございます。監査委員事務局次長の棚田吉浩です。

今日は、内部統制と業務上のリスクについてお話ししたいと思います。

平成29年6月に地方自治法の一部を改正する法律が公布され、内部統制に関する方針の策定等の整備が都道府県及び指定都市に義務付け、その他の市町村は努力義務とされ、来年4月から施行されます。

「内部統制」とは、業務を適切に進めるためのルールや手続きを設け、組織内のすべての人がそのルールに基づいて業務を遂行するプロセスをいいます。よって、内部統制は問題が発覚してからの事後対応ではなく、事前に予防・発見できる仕組みづくりのことです。

さて、私たちが行う業務には様々なリスクが存在します。不適切な内容での契約。意思決定プロセスの無視。進捗管理の未実施。不十分な資産管理。システムによる計算誤りや入力ミスなど。想定されるミスを挙げるとこのようなこととなりますが、発端はこのように大きな見出しではなく、いわゆる単純ミスです。

このようなリスクをなくすため、マニュアルやチェックリストがあり、これを作成して、単純ミスによる事故を低減させてきています。ミスをゼロにすることはできませんが、これをさらに低減させることはできます。

毎日の仕事において、まずは個々人が一つひとつ、ルールやプロセスの確認を行い、組織はそれを確認できる体制を構築することが必要となっています。

業務におけるリスクとその防止策の見える化が、いま求められています。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年7月30日(火)
担当者 教育総務課長 下野 直章

おはようございます。教育総務課長の下野直章です。

平成28・29年度の2年間、文部科学省への派遣という貴重な経験をさせていただきました。今日は、その2年間の中で、学んだこと、感じたことの中から、特に2点に絞ってお話しさせていただきます。

1点目は、「正しい答のないことを考える」ことです。国においては、法律や制度設計など自治体に対し方向性を示す立場になります。正しい答がない中、データなど客観的な事実の収集と分析、示す方向性の実現可能性とそのメリット・デメリットの検証、関係者の合意形成や、プロセスなどを考え、実現することが求められます。

本市におきましても、人口減少をはじめ様々な課題がある中、私たち職員にも、積極的に「正しい答のないことを考え」政策立案や日々の業務改善に取り組むことが、今後益々求められると考えています。そのためには、業務の目的や効果、事務の在り方等について、日頃から点検することが重要であると考えています。

2点目は、「北広島市の強み」についてです。北広島市の人口規模、行政区域は大き過ぎず小さ過ぎない街であり、現状と課題について活きた情報が収集できること、それに基づき機動的で柔軟な政策展開ができることは、「北広島市の強み」だと感じています。また、職員一人一人の政策立案への関与度も高く、その実現可能性が高いことも、私たち職員の意欲の向上につながり、ひいては市役所の強みにつながると考えています。

北広島の未来のため、一人一人の知恵と知識、経験、感性を持ち寄り、皆さんと一緒に次の一步を踏み出したいと考えていますので、よろしく願いいたします。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。

放送日 令和元年7月31日(水)
担当者 学校教育課長 河合 一

おはようございます。教育部学校教育課長の河合です。

本日は、歴史上の人物の有名な言葉を引用して、若い職員の皆さんへエールを送りたいと思います。

紀元前60年頃の古代ローマ帝国では、カエサル、ポンペイウス、クラッススの三者が手を組み、強大な政治力を持つ元老院に対抗できる勢力として三頭政治を結成していましたが、クラッススが遠征先のパルティアで戦死した以降、カエサルは、国外の様々な地を平定、征服し、ローマの領土を拡大しました。

その功績によりローマでの名声を高めたカエサルに脅威を感じたポンペイウスは、元老院と画策してカエサルに対する遠征中止と軍の解散を命じました。しかし、カエサルはこの陰謀に立ち向かい、北の防衛線として知られていたルビコン川を軍隊を率いて渡るとき、「賽は投げられた」と叫び、軍隊を鼓舞しました。

当時、ルビコン川を軍隊を率いて渡るとは法により禁じられ、ローマに対する反逆とみなされましたが、もう後戻りは出来ないカエサルの決意は、その後のローマでの支配権確立に繋がりました。

「賽は投げられた」の「賽」とはサイコロのことであり、「出た目に従って前進するしかない」という意味から転じ、「結果はどんなろうとも断行するほかはない」等の意味もあります。私は、普段の仕事の中でも、結果を恐れずに突き進んでいく勇気が、時には必要と思います。理屈ばかりの閉塞感を打ち破る斬新なアイデアがあっても、行動に移さないと何の意味もありません。若い職員の皆さんには、失敗を恐れず、勇気を持って日々の業務にあたり、多くの経験を積んでほしいと願います。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日元気に頑張りましょう。